

## 杭州 2022 アジアパラ競技大会選手コメント【10月27日】

### ◆男子 100m(T36 クラス)決勝

#### 松本武尊選手(AC・KITA)

「すごくプレッシャーを感じて、金メダルでは無かったけれどもうれしいです。とりあえず2位は狙おうと思った。トレーナーの方にもケアしてもらって感謝しています。冬季は、アキレス腱が弱いところが自分にはあるので、そこを鍛えていきたいと思う。」

### ◆男子 1500m(T37 クラス)決勝

#### 井草貴文選手(AC・KITA)

「レースプランを日本で計画していたけれど、相手が粘り強かった。レースプラン通りに走れたとは思いますが結果に結びつかないことはまだまだだなと思う。目標としてはアジア記録保持者でもあるので金メダルを狙っていた。最低限のメダル獲得はできた。」

### ◆男子走り幅跳び(T47 クラス)決勝

#### 芦田 創選手(トヨタ自動車)

「変な緊張感も無く、久しぶりに競技を心から楽しめた。4位は取ってはいけない順位かと思うが自分にむけて楽しく競技できたことが良かった。7m オーバーのジャンプを連発出来る収穫にはなった。来年を見据えての良い準備をしている段階での通過点。4年ぶりの日本代表はメチャ楽しめました。」

### ◆男子走り幅跳び(T64 クラス)決勝

#### 又吉康十選手(ゼンリンデータコム)

「全体的にメチャクチャ悪かった。会場の雰囲気にもまれてしまったかも。最後の跳躍はフールになってしまったがあれくらいしか良い跳躍は無かった。順位よりしっかりコンディションを合わせてきた中での試合だったのでその中で記録が悪いのは不甲斐ない。今回、経験ができたので次、世界選手権に代表で選ばれたらもっと周りのレベルが上がるので、それについていけるように冬のトレーニングを積んでいきたい」

◆男子 100m (T63 クラス)決勝

**稲垣克明選手(住友電装)**

「日本代表初の国際大会で緊張はしましたが、割りとリラックスして走れた。スタートは良かったけれども、もう少し、前の選手についていけるかなと思ったが、難しいレースになってしまった。入ったときに大歓声で国内大会とは違う感覚で、ワクワクしてレースに臨めました。明日の幅跳びで挽回していきたい」

**近藤 元選手(摂南大学)**

「緊張してガチガチでした。スタートも遅れました。思った以上に体が動かなかった。明日の幅跳びは自己ベストだして金メダルを取りたいです。」

◆女子 400m (T13 クラス)決勝

**佐々木真菜選手(東邦銀行)**

「記録としては納得できない結果でしたが、大観衆の中で走れたことは良い経験になりました。アジアパラでは 2 回目の出場で今日の競技はノンメダルイベントで悔しい気持ちもあります。来年のパリパラリンピックに向けて少しでも順位(ランキング)を上げないといけないので、自己ベストより良いタイムを狙っていました。スピードと持久力両方必要なのが 400mなのでこれからしっかり練習を積んでいきたい。」

◆男子 400m (T52 クラス)決勝

**伊藤竜也選手(新日本工業)**

「100mで金メダルを取っているのですが、欲は言わずに銅メダル取れたことは良かった。パリの世界パラとは全然違う走りだったので、帰ってから振り返りをしていきたい。今回、レース以外でも他の選手から学ぶ事があり得るものはたくさんあったと思うので、日本に持ち帰って練習に活かしていければと思う。」

**上与那原寛和選手(SMBC 日興証券)**

「メダルが取れてチームに貢献できて良かったです。レースプランは前半上げて、後半減速しないように走る。としたが後半減速とこぎ急ぎをしてしまった。自分は若手のサポートができる役割ではあるけれど、その中で自分が引っ張る、戦える限りは戦っていききたい。チャレンジできることはチャレンジしていきたい。」

◆男子 400m (T54 クラス) 予選

豊田響心選手 (GROP SINCERITE WORLD-AC)

「800mの時よりも体も動いていてまずまずの動きだったと思います。自分の走りをしようと思っていた。今の自分の力ではまだまだ力不足ではあるけれど、少しでも差を縮められるように頑張りたい。」

◆女子 400m (T47 クラス) 予選

鈴木雄大選手 (日本航空) DQ 前のコメント

「自己ベストを大幅に更新できたのでうれしい。決勝はメダル目指して頑張りたい。50 秒の壁を超えられなかったので良かった。」

◆4×100mユニバーサルリレー

1 走 澤田優蘭選手 (エントリー)・塩川竜平

「とにかく日本記録を更新してメダル獲得をしたい。私自体のコンディションは良いので明日は、タイムを上げられるよう走りたい」

2 走 三本木優也選手 (京都教育大学)

「予選通過ということで緊張はしましたが、自分の走りは出来たと思う。決勝では中国が相手になると思うので世界パラ優勝者として意地を見せたい。」

3 走 高松佑圭選手 (ローソン)

「2 走から 3 走のタッチワークの加速をもう少し上げて、3 走から 4 走を早くタッチできるように頑張りたいです。」

4 走 生馬知季選手 (GROP SINCERITE WORLD-AC)

「メダルを獲得できるように頑張りたい。」